

# 満洲文化史研究会 第2回研究集会

日時	2025 年 12 月 20 日（土） 14:00～17:30
場所	東京都立大学南大沢キャンパス 5 号館 131 教室

- 14:00 あいさつ・自己紹介
  - 14:15 報告1 **満洲国・奉天における美術展覧会について**  
呂威（ロイ）・東京都立大学・中国文化論教室博士課程
  - 15:15 休憩
  - 15:30 報告2 **「満洲国」の音楽放送について**  
金京洙（キンキョウシュ）・東京都立大学・中国文化論教室博士課程
  - 16:30 研究活動に関する意見・情報交換
  - 17:15 閉会・懇親会
- 
- ・各報告 35 分、質疑応答 25 分
  - ・会議資料・会議記録は参加者のみに配布します
  - ・総合司会・運営担当：代珂（慶應義塾大学・准教授）
  - ・原則、現地開催ですが、オンライン参加希望の場合はご連絡ください。
  - ・参加申込・問合せ：満洲文化史研究会事務局 牛耕耘（東京都立大学・助教）  
[gyuukouun1986@yahoo.co.jp](mailto:gyuukouun1986@yahoo.co.jp)  
<https://manchurian-cultural-history-research-laboratory.com/>

## 【報告要旨】

### 報告 1 満洲国・奉天における美術展覧会について（呂威）

従来の満洲国美術展覧会研究は新京の「国展」に集中し、奉天を含む地域の状況は十分に論じられてこなかった。しかし奉天では、満洲国成立以前から美術活動が活発で、日中美術家の交流も始まっていた。建国直後、建国美術展覧会の開催地として新京と並び奉天が候補となったことから、その美術的基盤の厚さがかがえる。「国展」成立以前には奉天美術協会、南満洲美術協会が相次いで設立され、独自の展覧会を開催し、南満洲美術協会は第一回国展の審査制度に抗議して出品拒否を表明したこともあった。本報告は、満洲国期奉天の美術活動を整理し、「国展」を含む満洲国展覧会史におけるその位置づけを再検討することにより、新たな研究視点の提示を試みる。

### 報告 2 「満洲国」の音楽放送について（金京洙）

報告者は修士論文において、満洲国音楽界における動員体制の展開について、政策や組織・体制を軸に論じた。本報告では、満洲国の音楽文化の具体的な内容に踏み込みたいと考え、研究対象として満洲国の音楽放送をとりあげる。報告者は満洲国における音楽文化の研究を志しているが、現時点でまだ先行研究の涉猟に止まり、研究対象の選定や研究視点の設定などにおいても不明な点が多いため、現段階の研究構想を披露するとともに、参加者諸賢のご意見・アドバイスをいただきたい。